

# 大溝保育園における食物アレルギーへの対応

<p>①保護者からの申し出 (面談) 園長、調理員が対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保育園給食でのアレルギー対応の実際を説明。</li> <li>● 保護者の要望、家庭で対応していること、意見等を聞く。</li> <li>● 保護者に、医師の診断書・指示書の提出を依頼。</li> <li>● 次年度においては食生活状況届及び給食個別対応届を提出してもらい、再確認をする。</li> </ul>
<p>②除去食の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医師の診断書に基づき、園長、保育士、調理員と対応を協議する。</li> <li>● 食物除去は、完全除去を基本とする。</li> <li>● 家庭で摂ったことのない食物は基本的に保育園では与えない。</li> </ul>
<p>③保護者との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者への事前に誤食が生じた場合の対応について確認、全職員がアレルギー児に関する情報を把握し、対応できる体制を整える。</li> <li>● 必要に応じて、保育士が献立表(1ヶ月分)のマーカチェックやアレルギーチェック表で、除去食を確認する。</li> <li>● 保護者とは常に情報交換を行い、子どもの状況を把握しておく。</li> <li>● 除去食への解除については、医師からの診断があっても、家庭において複数回食べて症状が誘発されないことを確認した上で、親からの除去解除申請書を提出してもらう。</li> </ul>
<p>④給食・おやつを提供</p>	<p><b>〔調理員〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 毎朝、食物アレルギー児の出欠の確認</li> <li>● アレルギー対応の調理については、食品の確認をしながら、調理、盛付けを行う。</li> <li>● 毎食専用トレーに配膳し、必要に応じてラップ等で蓋をし、混入がないようにする。</li> <li>● 調理されたアレルギー食の混入予防や保育室へ搬送するまでの間に誤配がないように、声出し確認を調理員間、調理員・保育士間で繰り返し行う。</li> <li>● 市販のお菓子を提供する際は、原材料表示を見ながら確認する。</li> </ul> <p><b>〔保育士〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 毎朝、食物アレルギー児の出欠を確認し、正確に給食室に報告する。</li> <li>● 体調等の変化のある場合は、給食室に連絡する。</li> <li>● 給食を取りに行く前に献立表を確認し、対応食を確認し配膳する。</li> <li>● 対応食は、通常食より先にトレーと子どもをよく確認して、テーブルに置き、児童が間違っ食べないように気をつけておく。</li> </ul>

単独事業の大木町野菜等産地消モデル事業、大木町農産物加工促進事業などに取り組み、付加価値の高い農産物加工品の開発、販売を促進したいと考えているが、十分でないのが現状で引き続き取り組みを進めていきたい。

**産業振興課長** 現在、くるるん周辺で集落に少量多品目野菜、施設野菜、特別栽培米作付等を推進する産地消モデルタウン構想を作成している。平成21年度から23年度までの3年間、野菜等産地消推進モデル事業を実施し、少量で多品目の野菜生産の定着等を目指しているが、まだ十分ではなく、24年度以降についても野菜生産の定着に向けた施策を模索しているところである。また、液肥を利用した減農薬、減化学肥料栽培、有機栽培の野菜栽培を推進したい。栽培された野菜については、道の駅おおきの農産物直売所、くるるん夢市場に液肥で栽培された野菜のコーナーを設置する等で販売の拡大を

図るとともに、少量多品目、いろいろな野菜全体をくるるん野菜、環のめぐみの野菜バージョンとしてブランド化できればと考えている。

**問** 我が町の液肥利用の成功の秘訣は何か。

**産業振興課長** 液肥を最初に使う分についてはかなりリスクがあったと考えるが、液肥利用推進会議の存在、また最初にご協力いただいた営農組合の皆さんのおかげで液肥利用が順調にすべり出したと考えている。(3年間の大学研究室、普及センターとの共同研究：など)

**問** 液肥スタンドについて、希望すれば設置できるか。どのような手順であれば設置できるか。

**環境課長** 現在6カ所ぐらい1トンのタンクを設置している。数年前広報で募集して、希望のところに地元で管理していただくということで設置。



くるるんメタン発酵槽

(前牟田西、道本、五反田、中村：など)ももちろん、町民の皆さんに利用していただくよう、くるるん、環境プラザにも設置。(希望の地区にはできるだけお応えしていきたい。(現在 液肥1トンタンク【残】2〜3個)

H22年度(生産量4758.4t)					H23年度				
	地区名	面積 m <sup>2</sup>	散布量 t	人		地区名	面積 m <sup>2</sup>	散布量 t	人
水稲	前牟田東	143,677	837.5	27	水稲	前牟田東	148,819	873.8	27
	中 島	89,127	530.0	9		中 島	104,136	616.8	13
	道 本	34,200	205.2	6		道 本	59,813	358.9	10
	横溝本村	33,049	198.3	5		横溝本村	56,249	334.5	7
	五反田	27,147	162.9	3		五反田	58,132	346.3	7
	侍 島	78,016	390.1	16					
	上木佐木下	92,798	572.8	13					
	三八松	41,772	292.4	3		三八松	54,634	382.4	3
	横 溝 町	4,909	29.5	1					
	<b>合 計</b>	<b>544,695</b>	<b>3,218.7</b>	<b>83</b>		<b>合 計</b>	<b>481,783</b>	<b>2,912.7</b>	<b>67</b>
麦	前牟田西	66,649	466.6	7	麦				
	堀 田	118,834	831.8	17					
	横溝本村	3,065	21.5	1					
	<b>合 計</b>	<b>188,548</b>	<b>1,319.9</b>	<b>25</b>		<b>合 計</b>	<b>0</b>	<b>0.0</b>	<b>0</b>
菜種	前牟田西	17,374	121.5	2	菜種				
	<b>合 計</b>	<b>17,374</b>	<b>121.5</b>	<b>2</b>		<b>合 計</b>	<b>0</b>	<b>0.0</b>	<b>0</b>

単位：㎡

**問** これまでの液肥の利用の状況と成果

「くるるん」肥散布圃場の推移